

# グローバル化社会に向けた大学教養教育

大橋 眞、齊藤隆仁

(徳島大学大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部)

## 1. はじめに

今後の日本の社会は、グローバル化により大きな変化が予想されており、このような変化に対応できる人材育成が急務の課題となってきた。これまでの既存の人材育成のシステムは、既存の社会に対応できる人材育成を行うことを主目的にされているために、これからの社会の変革に柔軟に対応できる人材育成を目指すためには、新しい教育システムを創出していく必要がある。グローバル社会の問題の現状の分析にとどまらず、将来を見据えて物事を考える視座の育成は、これからの社会に必要な人材育成にとって不可欠である。そのためには、大学において教養教育の位置づけを見直して、グローバル化社会に対応できる人材育成のための教育をめざして改革を進めていくことが必要であると考えられる。

## 2. 取り組みについて

グローバル化社会の課題については、様々な観点からの検証が必要になる。そのためには、受講生が受動的に授業に参加するのではなく、自らが積極的に学びを作り上げるアクティブラーニング形式の授業が有効であると考えられる。そのために、アクティブラーニングによる幾つかの形式の授業を取り入れている。また、議論と行動を組み合わせることで、理解を深めることを目指している。

### A. 地域社会人が大学教育ボランティアとして参画して、グローバル社会に関連した議論をする授業

グローバル化社会に関して造詣の深い社会人と共に、グローバル社会に関連する社会問題を多面的な視野から議論をする。

- ・グローバル社会と医療を考える
- ・持続可能な社会とは
- ・持続可能な社会とは何か
- ・ボランティア活動から学ぶ持続可能な社会
- ・グローバル社会を考える
- ・ボランティアリーダーと語る地域社会
- ・持続可能な社会に向けた教育とは

### B. 留学生と共に、異文化理解に関連した話題を議論をすることや、異文化交流体験を通じて地域文化を理解するための授業

留学生と対話をするを通じて、異文化を理解すると共に、自分の地域文化に対する気づきを起こさせることを目的としている。

- ・異文化交流から学ぶグローバル化
- ・異文化交流体験から何を学ぶのか
- ・グローバル・コミュニケーションⅠ
- ・グローバル・コミュニケーションⅡ

### C. インターネットを用いて海外の大学生と対話をする授業

海外の大学生との対話を通じて、お互いの社会環境の違いと、その背景に対する気づきを起こさせることを目的としている。

- ・グローバル社会に必要な異文化理解のためにⅠ及びⅡ

### 海外の交流相手校

- タイ・チェンラーイラチャパット大学
- 韓国・慶北大学
- 中国・青島理工大学
- モンゴル・モンゴル科学技術大学

### D. 海外の大学を短期訪問するスタディツアー

海外の大学を短期訪問して、現地の大学生と共に地域文化をテーマとしたプレゼンテーションと議論をおこなう。

- ・モンゴル国スタディツアー
- ・タイ スタディツアー
- など

### E. ピアラーニングを中心としたサマースクール

徳島大学総合科学部が主催しているサマースクールの取り組み。交換留学の協定校などから、相手校の学生が、夏期休暇を利用して4週間または8週間の間、社会人が参画する全学共通教

育の共創型学習や教養科目に体験参加する。全学共通教育受講生は、次のような場において、短期留学生と共にグローバル化社会に必要なコミュニケーション力を養う。

- ・グローバル化に関する授業
- ・自主活動としてのピアラーニング
- ・調理体験を通じたコミュニケーション（グローバルクッキング）
- ・登山や地域におけるインターンシッププログラム、ボランティア活動に留学生と共に参加

#### F. International Student Conference の開催

総合科学部と工学部が主催するサマースクールの一部を合同プログラムとして実施している。グループディスカッションやグローバル化社会に関わるプレゼンテーションにおいて、留学生と共に学ぶ。同様の趣旨のカンファレンスは、モンゴルスタディツアーにおいても毎回実施している。

今回の報告では、このような授業、課外活動に参加した学生や地域社会人などが得た成果について、アンケート調査や聞き取り調査、並びに提出物などの記述をもとにして検証する。また、スタディツアーの意義についても考察したい。

グローバル化社会に対応する人材育成のプログラムは、今後も様々な形で作り出して、実践していく必要がある。グループディスカッションや課外活動などの学習を通じて、グローバル社会を考える機会をもつことにより、その後の勉学に対するモチベーションを明確化できる。グローバル化社会に対する様々な視点からの議論を通じて、この問題に対する本質的な理解につながっていくと考えられる。



図1. 地域社会人が参画したグローバル化社会に関する授業でのグループディスカッションの風景



図2. モンゴル・ビジネス大学での International Student Conference



図3. サマースクールでのグローバルクッキング  
参考文献

1. 大橋 眞・齊藤 隆仁 :Peer learning を主体としたサマースクールプログラム大学教育研究ジャーナル, No. 10, 31-38, 2013年
2. 大橋 眞・中恵真理子・光永雅子・齊藤隆仁 世代間交流による生涯学習- 大学教養教育における対話型学習- 日本生涯教育学会論集 33:133-141, 2012年
3. 大橋 眞 生涯学習と大学教育の融合から生まれる知の循環型社会構築- 持続可能な社会に向けた地域の大学の課題- 日本生涯教育学会年報 32:227-244, 2011年
4. 大橋 眞・中恵真理子・光永雅子・齊藤隆仁 地域社会人、学生、教員でつくる学びのコミュニティから創出される新たな視点 日本生涯教育学会論集 32:3-11, 2011年